

見る!

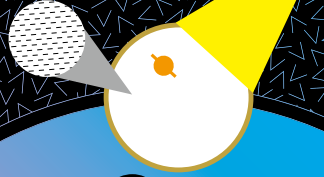
聴く!

体験
する!

遊ぶ!

世界中の新しい物事に
出会うチャンス!
Born Creative Festival 2026.3.1 Sun

ポ
ン
ク
リ



ようこそボンクリへ！

本日は、“Born Creative” Festival（ボンクリ・フェス2026）にご来場いただき誠にありがとうございます。本フェスティバルは、第1回目より、世界的に活躍する作曲家 藤倉大氏をアーティストック・ディレクターに迎え、「今の時代の音楽をより多くの人々に楽しんでいただく」をコンセプトに、藤倉氏がその融通無碍な感性で選んだ世界中の「新しい音」をお届けする企画です。今年で8回目の開催となります。

7回目の音楽祭までに取り上げた作曲家は196名にのぼります。作品は多くの場合、作曲家の頭の中にあるものが楽譜という形で表現されますが、それが演奏家によって演奏され、聴く人々に届いて初めて完成するものだと思います。今年のフェスティバルでは、日本初演・世界初演の作品を複数ご用意していますので、ぜひ作品が完成する現場を目撃しにいろいろな会場にお運びください。

最後に、開催実現にあたってお力添えいただいた関係者の皆さま、ご来場の皆さま、そして様々な形でご支援くださった皆さまに深く感謝申し上げます。

東京芸術劇場

アーティストック・ディレクター：藤倉大

舞台監督：浦弘毅 菅原有紗((株)ステージワークURAK)

舞台進行：北野ひかり 佐々木啓 小田伸泰 渡部哲成

近藤ひより((株)ステージワークURAK)

音響オペレーター：小内弘行 大嶋純平 黒崎雅宏 山本正浩 村松寛人

宮脇和花 (株)ジョイサウンドプロモーション)

照明サポート：A EST FIRM 合同会社マッシュシステムズ

ビジュアルデザイン：秋澤一彰 (秋澤デザイン室)

ホームページ制作：(株)ディップス・ブラネット

【東京芸術劇場スタッフ】

副館長：鈴木順子

事業企画課長：矢作勝義

制作・運営統括：大貫篤

プロデューサー：山下直弥

技術統括：安田武司

技術統括補：松島千裕

舞台監督：奥野さおり

音響プラン：石丸耕一

照明プラン・映像：新島啓介

映像：安藤達朗

舞台：渡邊武彦 榎木涼子 柳生貢市 國滝涼 朴木亮 吉川拳汰

照明：井上武憲 安藤達朗 志賀正 山川剛 高山智弘 川守田英樹

荒谷舞子 石澤純伶

音響：行方太一 澤口敬一 齋藤泰邦 中野雅也 大野瑛 平本顕栄

大谷夏芽 白石咲羽

制作：奥田もも子 前田瞳

運営：出口マミ 曾宮麻矢 鋤田千里 前久保諒 肥後裕介

広報：川崎映子 久保風竹 山口彩 桑原佳菜子

票券：奥村和代 井上由姫 春原有希

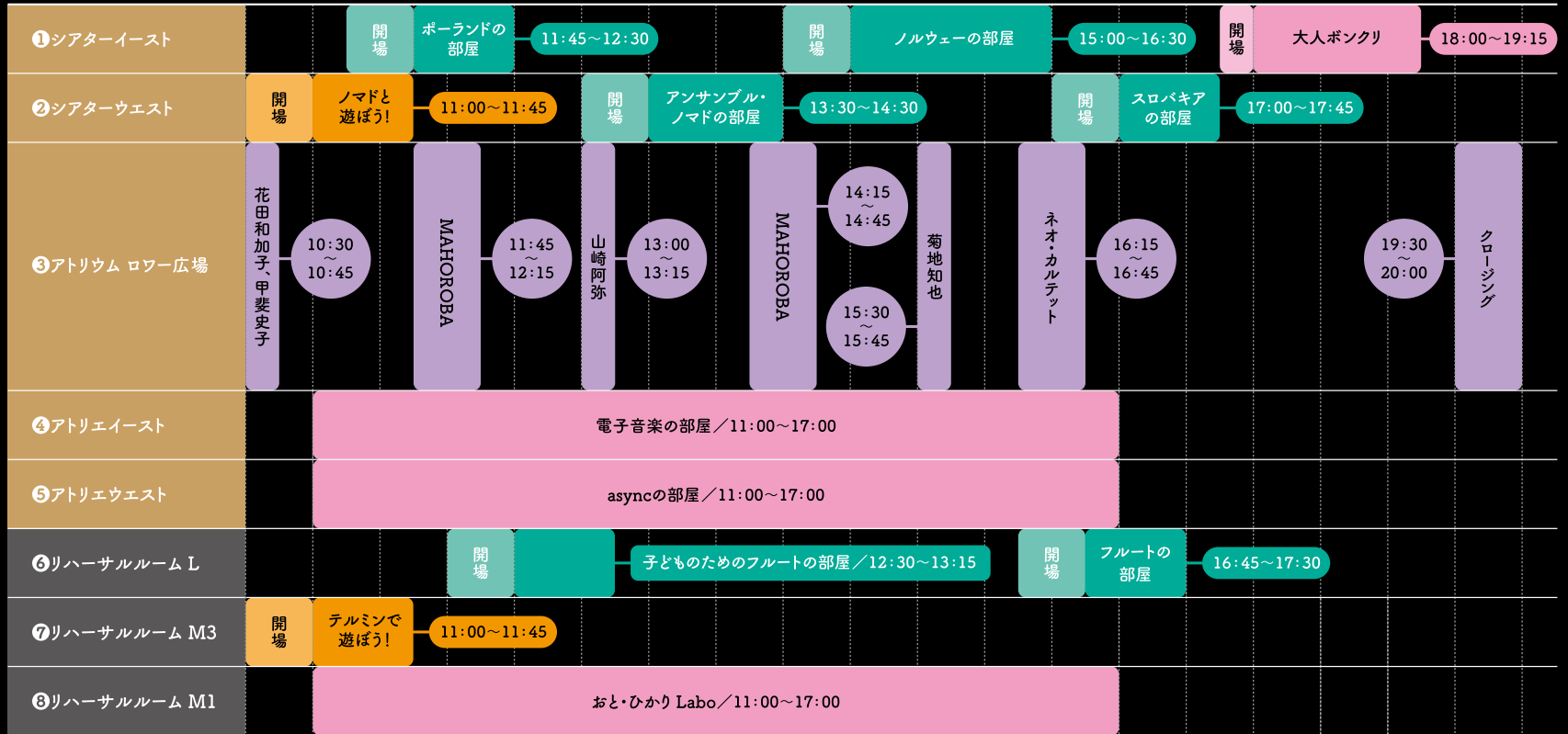
経理：萩原佑美 吉村美紀 鈴木彰子

3.1(日) スケジュール Schedule

B1F B2F

コンサート・プログラム ワークショップ・プログラム 誰でも楽しめる無料プログラム アトリウム・コンサート／クロージング

10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00 17:30 18:00 18:30 19:00 19:30 20:00



※やむを得ぬ都合により、スケジュールが変更になる場合がございます。

ボンクリ・フェスの過去と未来

2017年、東京芸術劇場から「一度だけ劇場を自由に使って音楽祭をしたら、どんなことをしたいですか?」と尋ねられたことが、ボンクリ・フェスの始まりでした。

そのとき僕は、「人間なら誰でも抱く“新しい音が聴きたい!”という気持ちをテーマに、世界のあらゆるジャンルの音楽を紹介したい」と答えました。まさか初回から長蛇の列ができるとは思っていませんでしたし、その後7回も続くとは想像もしていませんでした。

「ボンクリ」という名前は、当時ガーディアン紙に掲載された“Everyone is born creative (人間は誰しも生まれながらにして創造的だ)”という言葉に強く共感したのがヒントになっています。

僕は当時、福島県相馬市で5歳から高校生までを対象にした作曲教室を続けていました。そこで気づいたのは、すべての子どもが「新しい音」「新しい音楽」、そして5歳児の言葉を借りれば「変な音」が大好きだということ、そして、なぜかその創造性は成長とともに失われてしまうということです。

ボンクリ・フェスでは、大人になっても“5歳の子どものまま”クリエイティヴであり続ける人たちの作品を紹介し、社会のあらゆる人々に子どもの頃の創造性を思い出してほしい、という思いを込めています。

これまでに紹介した作曲家は約200名、演奏曲は550曲にのぼります。他の作曲家のために力を注ぐことは、僕自身にとっても大きな学びでした。どの作品も似ているものはなく、個性が際立っていて、正直、お客さん以

上に僕の方が毎年ボンクリを楽しみにしていたと思います(笑)。知らない曲ばかりを一度に聴ける機会なんて、なかなかありませんからね。

最終回となる今回も、アメリカ、スロバキア、ノルウェー、ポーランド、イギリス、そして日本——6か国からアーティストが集まります。コンサート、ワークショップ、オーディオルームなど、さまざまな形式で新しい音楽をご紹介します。

初回に登場したフルーティスト、クレア・チェイスさんが再登場し、彼女のために作曲されたテリー・ライリーさんの作品を披露してくれます。

ノルウェーからは、ボンクリのレギュラーメンバーとなったヤン・パングさんをはじめ、エキサイティングな即興演奏を聴かせてくれるアーティストたちが参加。

ポーランドからはネオ・カルテット、スロバキアからはクエーサーズ・アンサンブルと、個性豊かなメンバーが揃います。新しい音楽を語る上で避けることのできない東ヨーロッパの音楽。

日本からはおなじみのアンサンブル・ノマド。芸術監督の佐藤紀雄さんとメールでやり取りしながら、面白い作品を選びました。

ワークショップでは、劇場の音響技術者・トーンマイスター石丸によるテルミン講座を開催します。毎回人気の“音を追求する”ワークショップで、ボンクリの根幹ともいえる企画です。アンサンブル・ノマドによる、みんながアンサンブルできるワークショップもあります。

無料プログラムも充実しています。

アトリウム・コンサートでは、邦楽楽器アンサンブル J-TRAD Ensemble MAHOROBA や声のアーティスト 山崎阿弥さんが出演。広場で音楽を聴くという行為は、人間の原始的な音楽体験だと僕は思っています。

そして毎回おなじみ、檜垣智也さんの「電子音楽の部屋」。プロからアマチュアまで多彩な電子音楽が集まり、檜垣さんとコンセプトを考えるのは毎年の楽しみでした。今回は、坂本龍一さんの代表作「async」を、坂本さんが愛していたスピーカーで聴けるオーディオルームも登場します。

さらに新企画として、東京芸術劇場の照明チームが「音」と「光」にフォーカスした実験室を展開。僕も詳細を知らず、ワクワクしています。毎回ファンの多い電子音楽コンサート「大人ボンクリ」も開催します。

フェスの締めくくりは、大友良英さんと僕による即興セッションです。

これまでボンクリ・フェスを愛してくださった皆様、そして支えてくださった皆様に心から感謝いたします。

ボンクリはこれで終わりではありません。僕と芸劇、そしてアーティストたちが蒔いた“ボンクリの種”が、どこかでまた芽吹くことを願っています。

“東京芸術劇場での”最後のボンクリ・フェス——

どうぞ、新しい音楽に浸かり、たっぷり浴びてください。

藤倉 大

(作曲家/ボンクリ・フェス2026 アーティスティック・ディレクター)



©AIF Solbakken

藤倉 大

FUJIKURA Dai

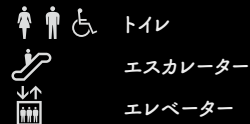
作曲家

ボンクリ・フェス2026アーティスティック・ディレクター

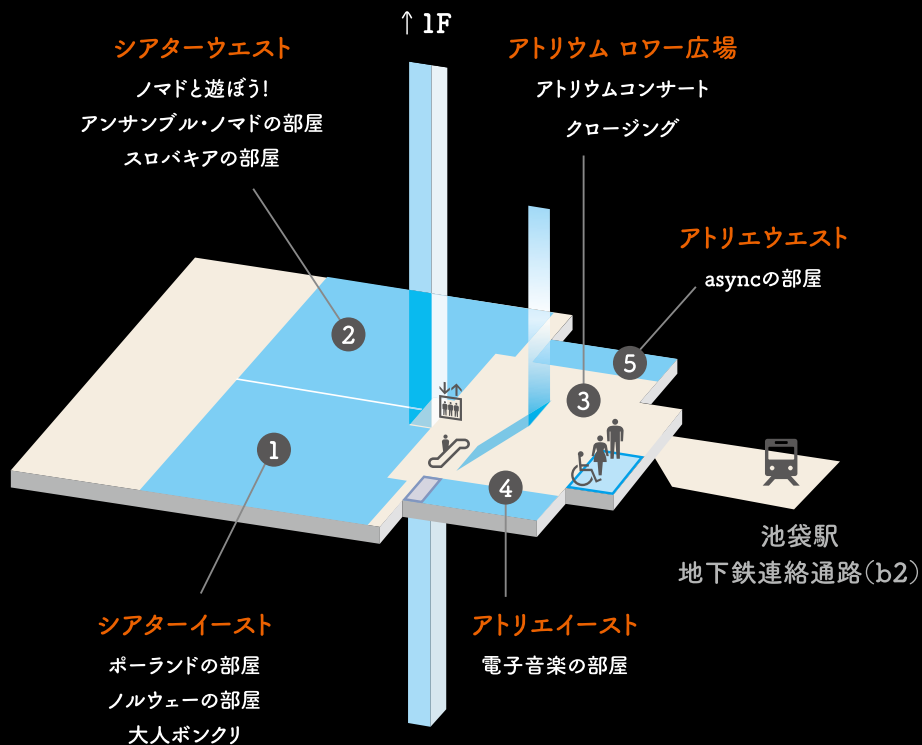
Composer, Artistic Director

大阪府生まれ。15歳で単身渡英しG.ベンジャミンらに師事。これまでに数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛ける。オペラの国際評価も高く、2015年にジャンゼリゼ劇場、ローザヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱による《ソラリス》を世界初演。20年に自身3作目のオペラ《アルマゲドンの夢》がある。26年2月に《The Great Wave 北斎》として知られていた芸術家の生涯に基づく全5幕のオペラがスコットランドで世界初演された。23年に4度目となる尾高賞を受賞。近年の活動はリモート演奏のための作品発表や、テレビ番組の作曲依頼等多岐に渡る。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルやMinabel Recordsから、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版。 <https://www.daijufujikura.com/>

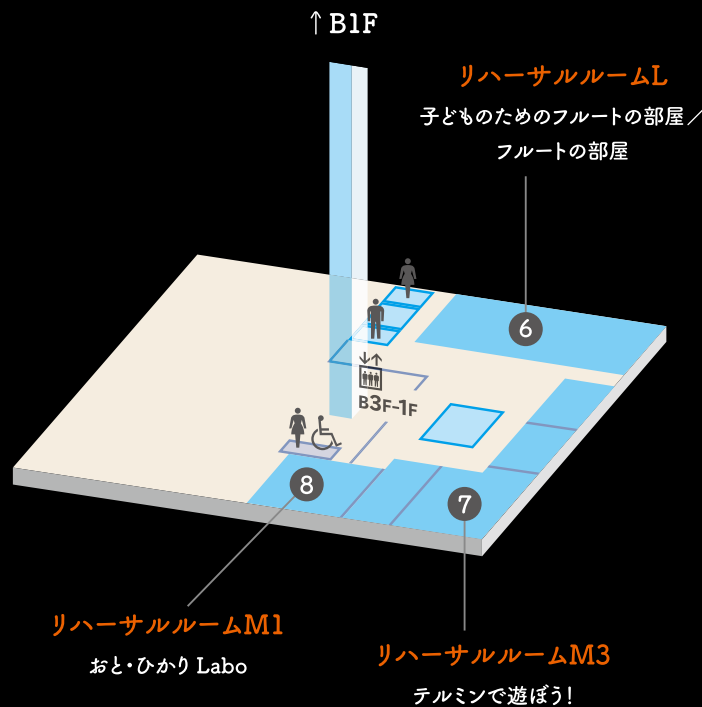
フロアマップ
Floor Map



B1F



B2F





©2/FaithCompany



©2/FaithCompany



©2/FaithCompany



©2/FaithCompany



©2/FaithCompany



©2/FaithCompany



©T.Tairedate



©2/FaithCompany



©2/FaithCompany

Artist Profile

アンサンブル・ノマド Ensemble NOMAD

現代音楽アンサンブル
Contemporary music ensemble



©Maki Takagi

ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。

[アンサンブル・ノマド メンバー]

佐藤紀雄 (ギター・指揮) 木ノ脇道元 (フルート)
林憲 秀 (オーボエ) 菊地秀夫 (クラリネット)
塚原里江 (ファゴット) 萩原顕彰 (ホルン)
佐藤秀徳 (トランペット) 今込 治 (トロンボーン)
花田和加子・迫田 圭 (ヴァイオリン)
甲斐史子 (ヴァイオリン/ヴィオラ)
菊地知也 (チェロ) 佐藤洋嗣 (コントラバス)
中川賢一 (ピアノ) 宮本典子 (打楽器)

佐藤紀雄 SATO Norio

ギター・指揮
Guitar, Conductor



©Akitooshi Higashi

ギター奏者として古典のレパートリーのほか武満徹、高橋悠治、近藤譲、松平頼暁、福士則夫などの作品の世界初演を手掛け、また指揮者としても内外の現代作品の演奏、初演を行っている。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し、音楽監督に就任。ソロ、アンサンブルのCDも多数リリースしている。

出会ユキ DEAI Yuki

笙
Sho



風笙を宮内庁式部職の多志純氏に師事。古典や現代音楽の演奏に積極的に取り組んでいる。日本モンゴル国交樹立50周年記念行事(2022年)、日本カンボジア友好70周年(2023年)で笙を演奏。2025年3月には山田和樹指揮、バーミンガム現代音楽グループ演奏の藤倉大作曲「笙協奏曲」世界初演のソリストを務めた。

ネオ・カルテット Neo Quartet

弦楽四重奏
String Quartet



©Malgorzata Popińska

ポーランドを拠点に活動する弦楽四重奏団。これまでに約25か国で演奏を行い、カーネギーホール(NY)や紫禁城音楽ホール(北京)など著名な会場に出演。2017年以降はMIDI弦楽器やシンセサイザーを導入し、革新的なサウンドを追求。2022年には自作曲によるアルバム『String Theory』を発表。ポーランド・グダニスクで開催される国際芸術祭「NeoArte」の主催も務め、現代音楽とアートの最先端を紹介する場として注目を集めている。

カロリナ・ビョッコフスカ=ノヴィツカ(1stヴァイオリン)
バヴェウ・カピツァ(2ndヴァイオリン) ミハウ・マルキェヴィチ(ヴィオラ)
クジシュトフ・バヴウォフスキ(チェロ)

ヤン・バング Jan BANG

ライブ・サンプリング
Live Sampling



©Aif Solbakken

ノルウェーの音楽家・プロデューサー。シゼル・アンドレセン、デヴィッド・シルヴィアンやティグラン・ハマシアンなどのアーティストと多数のコラボレーションを重ねてきた。1996年に「Live Sampling ライブ・サンプリング」を提唱し、電子音楽の革新者として知られ、2005年にはエリック・オノレと「PUNKT FESTIVAL プンクト・フェスティバル」を創設。革新性と大衆性を兼ね備え、音楽と人々をつなぐ架け橋として活動し続けている。現在はアグデル大学ポピュラー音楽科の教授を務める。

ニルス・ペッター・モルヴェル Nils Petter MOLVÆR

トランペット
Trumpet



ヨーロッパ・ジャズ界の静かな革新者。1997年にECMからリリースされた名盤『Khmer』ではジャズと電子音楽の融合を果たし、今日においてもデジタル時代におけるジャズの進化の分水嶺として頻繁に言及される。以降、『ソリッド・エーテル』『np3』など、ジャンルを超えた作品を発表し続け、即興とサウンドデザインを融合させた没入型ライブでも高い評価を得る。2025年にはデイヴ・ステープルトンのエディション・レコードと契約し、『Khmer Live in Bergen』で新章を切り拓く。

アイヴィン・オールセッ Eivind AARSET

ギター/エレクトロニクス
Guitar, Electronics



©Aif Solbakken

現在ノルウェーで最も人気があり、あらゆる音楽を吸収し、独自の音楽的ビジョンを持つギタリストである。静かな親密さから燃えるような激しさまで、多彩な表現が評価されている。バンドリーダーとしてJazzland Recordingsからデビューし、そのアルバムがNew York Timesにて「Miles以降のエレクトリック・ジャズのベストアルバムのひとつ」と評された。

クエーサーズ・アンサンブル Quasars Ensemble

現代音楽アンサンブル
Contemporary music ensemble



©J. Westly 2021

2008年に設立されたスロバキアを代表するアンサンブル。芸術監督イヴァン・ブッフア(指揮者・作曲家・ピアニスト)のもと、古典作品と現代音楽を融合させた革新的なプログラム構成により、国際的に高い評価を得ている。細川俊夫、藤倉大、カイヤ・サーリアホ、トリスタン・ミュライユなどの著名作曲家や、イリヤ・グリンゴルト、鈴木俊哉ら優れた演奏家と共演を重ねてきた。ワルシャワの秋、ブラハの春、ダルムシュタット夏期講習など、世界各地の主要音楽祭に出演。これまでに17枚の録音を発表し、最新作はKAIROSLレーベルよりイヴァン・ブッフアとヴィエラ・ヤナルチェコヴァの作品を収録している。

イヴァン・ブッフア(アーティストック・ディレクター/ピアノ)
ディアナ・ブッフア(ピアノ)
ヴィラ・ジュク、ペーター・モソルジャク(ヴァイオリン)
アレクサンドル・ズナメンスキー(ヴィオラ) アルネ・キルヒャー(チェロ)

クレア・チェイス Claire CHASE

フルート
Flute



現代音楽の革新に取り組むフルート奏者・アーティスト・教育者である。2001年にインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブルを共同設立し、2012年にマッカーサー・フェロー、2017年にエイヴリー・フィッシャー賞を受賞した。2013年に開始した「Density 2036」は、ソロ・フルートの新たな可能性を探る24年間の委嘱プロジェクトであり、毎年新作を初演・録音・公開している。ハーバード大学音楽学部の教授として教育にも力を注ぎ、

ジュリアード音楽院ではクリエイティブ・アソシエイトを務める。2022~23年にはカーネギー・ホールのクリエイティブ・チェア、2025年にはオーハイ音楽祭の音楽監督を務めた。これまでに11枚のソロ・アルバムを発表し、批評家から高い評価を得ている。彼女の活動は、フルートという楽器の可能性を拡張し、次世代の音楽文化の形成に大きく貢献している。

大友良英

OTOMO Yoshihide

ギター
Guitar



©佐藤雅

ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップスまで多種多様、その活動は海外でも大きな注目を集める。NHKの朝の連続小説「あまちゃん」や大河ドラマ「いだてん」などの劇伴音楽も多数手がける。日本はもとより世界各地で様々なアーティストとコラボレーションを行うほか、『プロジェクトFUKUSHIMA!』の立ち上げや『札幌国際芸術祭』芸術監督など、その活動は多岐に渡る。

蓮沼執太

HASUNUMA Shuta

水／音の回転
Water, Sound will spin



©Nathalie Cantacuzino

音楽家、アーティスト。1983年、東京都生まれ。蓮沼執太フィルを組織して、国内外での音楽公演をはじめ、映画、テレビ、演劇、ダンス、ファッション、広告など様々なメディアでの音楽制作を行う。また「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、彫刻、映像、インスタレーション、パフォーマンス、プロジェクトを制作する。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

トーンマイスター石丸

Tonmeister ISHIMARU

「テルミンで遊ぼう!」講師
Let's Play the Therenim



©Hikaru.☆

東京芸術劇場 サウンド・ディレクター。舞台音響を辻亨二氏に、オペラの音響をポリシヨイ劇場元芸術監督ボリス・ボクロフスキー氏に師事。歌舞伎座、新橋演舞場勤務の後、東京芸術劇場サウンド・ディレクター。「藤倉大 ソラリス」(日本初演)「井上道義×野田秀樹ギガロの結婚」「岡田利規×オペラタカ」「野村萬斎×こうもり」「井上道義×森山開次ラ・ボエム」等のサウンドデザインに携わる。日本舞台音響家協会副理事長。

西村俊之

NISHIMURA Toshiyuki

「テルミンで遊ぼう!」講師
Let's Play the Therenim



早稲田大学卒業後、平成元年に(株)学習研究社入社。小学生向け学年別雑誌「科学」と「学習」シリーズの企画・編集に携わり、「4年の科学」、「5年の科学」、「6年の科学」、「6年の学習」等の編集長を歴任後、2003年創刊の「大人の科学マガジン」では副編集長、2004年から編集長を担当。現在、学研科学創造研究所所長及び大人の科学マガジン統括編集長。

ジェイ・トラッド・アンサンブル・マホロバ

J-TRAD Ensemble MAHOROBA

邦楽アンサンブル
Japanese Instrument Ensemble



©TAMAKI YOSHIDA

2020年結成。三味線・箏・尺八・邦楽囃子などの奏者6名によるアンサンブル。伝統音楽(民族芸能)と現代音楽を融合させた独自の音楽性を持ち、三味線演奏家・本條秀太郎より「マホロバ」と命名。国内外の作曲家への委嘱や定期公演を通じてレパートリーを拡充し、国際的に活動中。文化庁事業「日本音楽の魅力発信プロジェクト」に参加し、2026年にはアメリカ公演を予定。

本條秀慈郎(三味線・胡弓) 本條秀英二(三味線・胡弓)
木村麻耶(箏・二十五絃箏) 吉澤延隆(箏・十七絃箏)
川村葵山(尺八) 望月佐太晃郎(邦楽囃子)

山崎阿弥

YAMASAKI Ami

声／「大人ボンクリ」選曲
Voice／Selector of
"Born Creative Festival for Grown Ups!"



声のアーティスト・美術家。自らの発声によるエココレーションに近い方法を用いて空間を認識し、音響的な陰影をパフォーマンスやインスタレーションによって変容させる。世界がどのように生成されているのかを問い、科学者との共働に力を注ぐ。2025年東京芸術劇場TMTギアのアート・クリエイターに採択され新作舞台の制作に取り組んでいる。

檜垣智也

HIGAKI Tomonari

「電子音楽の部屋」監修/
大人ボンクリ 選曲

Supervisor for "Electronic Music Room"/
Selector of "Born Creative Festival for Grown Ups!"



©Ryuhei Yokoyama

愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目される。ボンクリでは1回目から電子音楽の部屋の監修を担当。ハーバード大学、ケルン大学、Futura音楽祭等で招待公演を行う。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から委嘱をうける。3枚のソロCDをリリース。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)、大阪文化祭奨励賞(2022)など受賞、入選多数。東海大学准教授、大阪芸術大学大学院客員教授。

永見竜生 [Nagie]

NAGAMI Tatsuo [Nagie]

「大人ボンクリ」楽曲シークエンス
Music Sequence for
"Born Creative Festival for Grown Ups!"



マルチ・サウンドクリエイター、レコーディング・エンジニア。藤倉大/歌劇「ソラリス」(東京芸術劇場2018)にてエレクトロニクス/サウンドプロジェクトを担当。蒲池愛の現代音楽作品のMaxプログラミングを行いISCM、ICNC、NIMEに入選。Aikamachi+nagie, ANANT-GARDE EYESとしてCM、アニメ、映像作品のRecordingからMix、作曲を行う。卓越した音響加工の手腕が評価されている。

牛島安希子

USHIJIMA Akiko

「大人ボンクリ」選曲
Selector of
"Born Creative Festival for Grown Ups!"



作曲家。愛知県立芸術大学大学院、ハーグ王立音楽院修了。ミュージック・フロム・ジャパン委嘱作曲家。作品はノヴェンバーミュージックフェスティバル(オランダ)、アルス・ムジカ音楽祭(ベルギー)、Focus現代音楽祭(ニューヨーク)など世界各地で演奏されている。第六回JFC作曲賞入選。ICMC入選。MUSICA NOVA 2014 ファイナリスト。フォスターミュージックより作品の楽譜が出版されている。令和4年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞。

コンサート・
プログラム
Concert
Programs

ポーランドの部屋

～弦楽カルテット

× 電子音 × 映像

Polish Room - String Quartet

× Electronics × Video

時間 11:45～12:30 [開場 11:15]

会場 シアターイースト

出演 ネオ・カルテット

カロリナ・ピョコフスカ = ノヴィツカ (1st ヴァイオリン)

バヴェウ・カピツァ (2nd ヴァイオリン)

ミハウ・マルキェヴィチ (ヴィオラ)

クシジュトフ・バヴウォフスキ (チェロ)

Neo Quartet

Karolina PIĄTKOWSKA-NOWICKA (1st Violin)

Paweł KAPICA (2nd Violin)

Michał MARKIEWICZ (Viola)

Krzysztof PAWŁOWSKI (Cello)

♪ ネオ・カルテット：ストリング・セオリー

Neo Quartet / String Theory

1. 避けられない道
2. プロトコル XSPT
3. フィフス・エレメント
4. ネオ・ボイジャー
5. キリエ

6. トランスミッション

7. フェロー諸島

1. Inevitable path

2. Protocol XSPT

3. The fifth element

4. Neo Voyager

5. Kyrie

6. Trancemission

7. Faroe Islands

Program notes

String Theory (ストリング・セオリー) は、ポーランド・グダニスクを拠点とする弦楽四重奏団 ネオ・カルテットによるユニークなプロジェクトです。現代音楽を専門とする4人の卓越した演奏家が、「エレクトロコースティック弦楽四重奏」という未踏の領域を探求します。高度なテクノロジーによって、聴衆はライブエレクトロニクス、マルチエフェクト、ループステーションによって変容した弦楽器の幅広い音響スペクトルを体験できます。ネオ・カルテットにとって、その可能性はまさに無限です。

また、この作品は、ネオ・カルテットの Musical Constitution (音楽の憲法) とも言える存在であり、彼ら自身のオリジナル作品を収録した初のアルバムです。現代クラシック、ジャズ、ミニマリズム、ロック、フュージョン、トランス、テクノといった、長年ネオ・カルテットを刺激してきた音楽世界を旅するような内容になっています。宇宙的な楽器音、アンビエントな空間、そして一貫したドラマ性をもつ構成が、聴き手を没入的で非現実的な音響風景へと誘います。

コンサート・バージョンでは、ラドスワフ・デルバによるライブ・ヴィジュアルイゼーションが音楽に寄り添います。

アルバムは2022年、ポーランドのインディペンデント・レーベル Requiem Records からリリースされました。

(ネオ・カルテット)

ノルウェーの部屋

ヤン・バングと仲間たちによる
エレクトロ・セッション

Norwegian Room
- Electronic session
by Jan BANG and his friends

時間 15:00~16:30 [開場 14:30]

会場 シアターイースト

出演 ヤン・バング(ライブ・サンプリング)

ニルス・ペッター・モルヴェル(トランペット)

アイヴィン・オールセット(ギター/エレクトロニクス)

大友良英(ギター)

藤倉 大(シンセサイザー)

Jan BANG (Live Sampling)

Nils Petter MOLVÆR (Trumpet)

Eivind AARSET (Guitar, Electronics)

OTOMO Yoshihide (Guitar)

FUJIKURA Dai (Synthesizer)

♪ Under Oak Tree

Program notes

ボンクリ・フェスがお届けする「Under Oak Tree (オークの木の下)」は、日本のアーティストの大友良英とアーティストック・ディレクターの藤倉大、そしてノルウェーのミュージシャンであるニルス・ペッター・モルヴェル、アイヴィン・オールセット、ヤン・バングによるスペシャルなコンサートです。彼らは皆、東京芸術劇場で長年にわたり演奏を続けてきたアーティストたちです。

ノルウェーの神話において、オークは様々な文化と同様に、「長寿」「力強さ」「忍耐力」の象徴です。日本文化では、オークの葉(柏)は子孫繁栄の象徴とされ、新しい葉が出るまで古い葉が落ちないことからそう見なされています。(ヤン・バング)



アンサンブル・ノマドの部屋

～室内楽アラカルト！

Ensemble NOMAD's Room
- Chamber Music à la carte

時間 13:30~14:30 [開場 13:00]

会場 シアターウエスト

出演 アンサンブル・ノマド

佐藤紀雄(指揮・ギター) 出会ユキ(笙)

蓮沼執太(水・音の回転) 増田義基(風・振動)

Ensemble NOMAD

SATO Norio (Conductor / Guitar) DEAI Yuki (Sho)

HASUNUMA Shuta (Water, Sound will spin)

MASUDA Yoshiki (Wind, Vibration)

♪ リサ・イリーン：タイディング I

Lisa ILLEAN: Tiding I

作曲者はオーストラリアに生まれ、現在はイギリスを拠点に作曲活動をしている。特異なチューニングによって重なり合う音楽が聴くものを瞑想に誘い込む独特な作風を持つ。エレキギターのためのこの作品も、六本の弦全てが通常とは激しく異なるチューニングで、どこまでも穏やかで不思議な響きは潮の満干のように時間を忘れさせる。(佐藤紀雄)

♪ テリー・ライリー : G Song

Terry RILEY: G Song

テリー・ライリーは2019年のポンクリでも演奏したミニマルミュージック作品《In C》の作曲家として広く知られているが、それが作曲されたのは今から60年前。ライリーはその後も様々な実験的な作品を多く作曲し、同時に精力的に鍵盤楽器による即興演奏も行っている。現在は日本を拠点に、活発な活動を展開しているが、演奏と作曲の双方において、クラシック、現代音楽、ジャズ、ロック、インド音楽などの要素を広く取り入れた独特な境地を表現してきた。アメリカの優れたグループであるクロノス・カルテットと出会った事が切っ掛けとなって、クラシックの伝統的な楽譜の作曲も再開したが、この作品もそのひとつである。(佐藤紀雄)

♪ ジグムント・クラウゼ : エレジー

Zygmunt KRAUZE: Elegy

今年88才を迎えるクラウゼはポーランドに生まれた作曲家兼ピアニストである。作曲家としては、7つのオペラと100を超える管弦楽曲、室内楽作品、ソロ作品があり、ピアニストとしてはヨーロッパ、南北アメリカ、アジアの主要都市で演奏をしてきた。ポーランドという過酷な歴史を背負った国の出身者である彼は政治にも強い関心を持ち、世界に起こる戦争や人権問題を正面から扱った作品も多くある。反骨心はこの『エレジー』にも反映され、音楽はタイトルの言葉から想像されるような感傷的なものではない激しさを持っている。(佐藤紀雄)

♪ 蓮沼執太 : Pierrepont

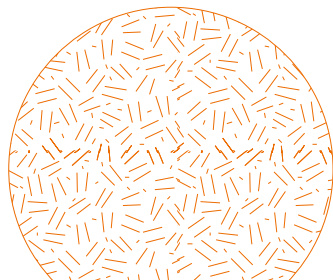
HASUNUMA Shuta: Pierrepont

真冬のBrooklynの自宅スタジオで、カタカタと鳴っていたセントラルヒーティングの音を録音しました。その音からピアノのフレーズを作り、シンセサイザーなどを重ねて、様々な場所でレコーディングしてきた音をコラージュした、時間と空間を旅するような楽曲です。(蓮沼執太)

♪ 藤倉 大 : 笙協奏曲

FUJIKURA Dai: Sho Concerto

この協奏曲は、笙独奏とアンサンブルのために書かれています。本作では笙とアンサンブルが一体となり、ひとつの流れるような響きの中で音が編まれていきます。アンサンブルはしばしば笙の響きを広げる存在のように感じられ、音は笙に溶け込み、そこからまた立ち上がって戻ってきます。そうした行き来の中で、文化の境界を越えるような、想像の音の世界が立ち上がります。笙を「特別な色」としてではなく、アンサンブルと共に呼吸する感じになるでしょう。その響きは、どこか別の世界のような感じ、だと良いなと思います。(藤倉大)



スロバキアの部屋

～クエーサーズ～

アンサンブルがやってくる!

Slovakian Room - Quasars Ensemble is coming!

時間 17:00～17:45 [開場 16:30]

会場 シアターウエスト

出演 クエーサーズ・アンサンブル

イヴァン・ブッフア

(アーティスティック・ディレクター、ピアノ)

ディアナ・ブッフア (ピアノ)

ヴァイラ・ジユク (ヴァイオリン)

ペーター・モソルジャク (ヴァイオリン)

アレクサンドル・ズナメンスキー (ヴィオラ)

アルネ・キルチャー (チェロ)

Quasars Ensemble

Ivan BUFFA (Artistic director, Piano)

Diana BUFFA (Piano)

Vira ZHUK (Violin)

Peter MOSORJAK (Violin)

Alexander ZNAMENSKYI (Viola)

Arne KIRCHER (Cello)

♪ イリヤ・ゼリェンカ : ムジカ・スロヴァカ

Ilya ZELJENKA: Musica slovacca

♪ ヴラディミール・ゴダール : リチェルカーレ

Vladimír GODÁR: Ricercar

♪ イヴァン・ブッフア：弦楽四重奏曲

Ivan BUFFA: String Quartet

♪ ヴラジミール・ボケシュ：コラージュ Op.28

Vladimír BOKES: Coll'Age, Op.28

♪ サミュエル・チャマーク：トレマーズ

(世界初演/クエーサーズ・アンサンブルによる委嘱作品)

Samuel ČAMÁK:

Tremors, commissioned by Quasars Ensemble

Program notes

「世代を超えるサウンドの世界」

クエーサーズ・アンサンブルは、弦楽器とピアノのための象徴的な室内楽作品を通して、20世紀後半から現代に至るスロバキア音楽を独自の視点から紹介します。プログラムには、スロバキア北部にある小さな村 チチマニの民謡のリズムが脈打つゼリェンカ作曲《ムジカ・スロヴァカ》、古い形式と現代的な表現語法を融合させたゴダール作曲《リチェルカーレ》、そして今年1月に生誕80年を迎えるはずだった作曲家ボケシュによる、対比と多層的なテクスチャに満ちた《コラージュ Op.28》が含まれています。

対照的に、ブッフアの4楽章からなる大規模な《弦楽四重奏曲》は、劇的なソナタサイクルとして展開します。あらゆる瞬間において、伝統と現代的な音響技法が交差し、緊張感、色彩、そして豊かな想像力に満ちた実験的な珠玉の作品となっています。コンサートのハイライトとして、サミュエル・チャマークによるピアノ三重奏曲《トレマーズ》の世界初演が行われます。「Saxophobia 作曲コンクール」の新たな受賞者であるチャマークの作品は、モルルス信号に着想を得たリズムを基盤とし、アンサンブル名への隠れた言及や、物語を押し進める脈動的な音型が織り込まれています。(イヴァン・ブッフア)

子どものためのフルートの部屋

The Flute Room for Children

時間 12:30~13:15 [開場 12:00]

会場 リハーサルルームL

出演 クレア・チェイス (フルート)

通訳 小野彩子

Claire CHASE (Flute)

ONO Saiko (Interpreter)

♪ スージー・イバラ：サンバード

Susie IBARRA: Sunbird

ピッコロ、フルート、バスフルートが用いられ、ときにはそれらが重ねて演奏されます。ピッコロによる鳥のさえずりのような呼びかけに、フルートの打楽器的な素材やトリルのバーストが応答します。湧き立つような音型は時折、歌うような模倣的旋律となり、続いて三本のフルートすべてによる短く無音高のアタックが奔流のように押し寄せ、ひとつの小さな生態系を形作ります。作品は、バスフルートによる、ため息のような、物思いにふけるフレーズで締めくくられます。

♪ ポーリン・オリヴェロス (編曲: クレア・チェイス):

『13 Changes』より抜粋

Pauline Oliveros (arr. Chase): Excerpts from 13 Changes

13の短く詩的で喚起的なテキストから成るテキスト・スコアであり、それらを音楽へと変容させることを意図して作られている。これらのテキストは、言葉から音楽へどのように変換すべきかについて一切指示を与えられておらず、その判断は演奏者に委ねられている。クレア・チェイスは、それぞれのテキストによる指示文を読み上げてから、多様なフルートでその内容を解釈していく。こうしてタイトルそのものが独立した存在として機能し、「荘厳な岩々の間に響く古の母たちの歌」から「火星に着陸する陽気なサルたち」まで、幅広いイメージを喚起する。

♪ マルコス・バルター：

《パンの笛》《エコー》- 『Pan』より

Marcos BALTER: Pan's Flute, ECHO from "Pan"

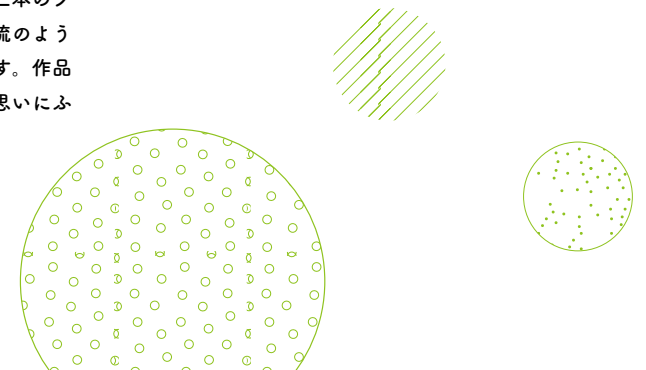
※「フルートの部屋」を参照

♪ テリー・ライリー：

『ザ・ホーリー・リフトオフ』より抜粋

Terry RILEY: Excerpts from The Holy Liftoff

※「フルートの部屋」を参照



フルートの部屋

～奇才クレア・チェイス
の妙技

The Flute Room - The Brilliance of Claire CHASE

時間 16:45～17:30 [開場 16:15]

会場 リハーサルルームL

出演 クレア・チェイス（フルート）

通訳 小野彩子

Claire CHASE (Flute)

ONO Saiko(Interpreter)

♪フェリペ・ララ：瞑想と書

Felipe LARA: Meditation and Calligraphy

イタリア・ウンブリアのチヴィテッラ城での滞在中、モンゴルの詩人で書家のG.メンドオーヨーと出会い、彼の力強く繊細な書に深く魅了された。彼は「長い瞑想の後、一瞬の筆致で書く」と語り、その姿勢に強く心を動かされ、私は彼とフルート奏者クレア・チェイスのために小品を作曲することにした。メンドオーヨー（G. Mend-Ooyo）の名前のスベル（G（ソ）、Me（ミ）、D（レ）、そしてDo（ド））から着想を得ている。

（フェリペ・ララ 編集：東京芸術劇場）

♪アンネア・ロックウッド：

《ソロ》～『Elwha!』より

Annea Lockwood: Solo from Elwha!

アンネア・ロックウッドがクレア・チェイスと共に制作した約40分の電気音響作品で、チェイスが演奏する7本のフルートと、エルワ川のフィールド録音による多重録音音源で構成される。ワシントン州のエルワ川はローワー・エルワ・クラム族の祖先の地であり、2014年のダム撤去後に生態系が劇的に再生したことで、世界的な再生プロジェクトの象徴となった。川に法的権利を認める運動にも触発され、作品では川の音を空間全体に拡散させる没入型の音響を採用。7本のフルートは、川とそこに息づく生命が生み出す多層的な音の世界に呼応する。

♪マルコス・バルター：エコー～《Pan》より

Marcos BALTER: ECHO from "Pan"

9つの情景を通して物語が展開するパンは、森のサテュロスの王であり、彼の音楽はすべてを魅了する。パンは完全な神でもなく、動物の仲間に完全に属しているわけでもない。彼は人間へと変貌しつつある、その境界に立つ存在なのだ。

《Pan》は、この激しく揺れ動く変容の過程を音楽的肖像として描き出す。

《パンの笛》*は、変容の始まりにおいてパンが「音楽」と「力」という二重の発見をする瞬間を語る。自己と仲間たちへの認識が変わり始めるとともに、パンは「愛」を感じ始める。

《エコー》は、パンが三人の恋人——エコー、セレネ、そしてシリクス——に捧げた賛歌のひとつである。

（ジェニー・ジャッジ）

*「子どものためのフルートの部屋」で演奏

♪テリー・ライリー：ザ・ホーリー・リフトオフ

（ソロバージョン）

Terry RILEY: The Holy Liftoff – solo version

アメリカを代表する作曲家テリー・ライリーは、本作品を、クレア・チェイスの長期プロジェクト「Density 2036」のために委嘱され、多数のフルートのための鮮やかな色彩のドローイングによるオープンスコアのスケッチブックとして書き始めた。ライリーは、手描きの図像が演奏者に、音楽に対して、そしてライリー自身に対して特定の姿勢を促すのだと説明している。「これらのドローイングで起きていることのひとつは、私がある種の“開かれた状態”を伝えているということなんだ」と彼は語る。この作品では自然が讃えられている。随所に陽光が差し、緑が広がり、空へと昇る螺旋の気流があり、そして鳥のさえずりも響く。いくつかのスコアは鳥の声を記譜したもので、飛ぶ鳥の手描きの姿が愛情深く添えられている。聴き手に残る最も強い印象は、あらゆるものが上昇していく感覚である。（ジェニー・ジャッジ）



©Walter Wlodarczyk

ワークショップ・
プログラム
Workshop
Programs

ノマドと遊ぼう！
～楽器と声でアンサンブル！

Let's Play with
Ensemble NOMAD

時間 11:00～11:45 [開場 10:30]

会場 シアターウエスト

出演 アンサンブル・ノマド

Ensemble NOMAD

♪ダリル・ランズウィック：この奇妙な装置

Daryl RUNSWICK: This Strange Device

♪エレナ・リコヴァ：クエスト#

Elena RYKOVA: Quest #

♪徳永 崇：きずなシステム

TOKUNAGA Takashi: Kizuna System

※ワークショップはアンサンブル・ノマドによるトークで進行します。



©T.Tairadate

テルミンで遊ぼう！
～トーンマイスター石丸の実験室

Let's Play the Theremin
- Tonmeister ISHIMARU's laboratory

時間 11:00～11:45 [受付開始 10:30]

会場 リハーサルルームM3

講師 トーンマイスター石丸

西村俊之 (学研 大人の科学マガジン 統括編集長)

関根愛

Tonmeister ISHIMARU,

NISHIMURA Toshiyuki (Editor-in-Chief of Gakken Otona no Kagaku Magazine)

SEKINE Megumi

Program notes

毎度おなじみ変な博士と変な助手がお送りするドタバタ「音の研究所」今回はテルミン！世界最古の電子楽器で「触れずに演奏」するんだ。えええ!? どうなるの!? テルミンを知ると人間の不思議な「身体と電気」の秘密がわかるよ！さらに学研 大人の科学からゲスト博士もやってくるよ！知って遊んで演奏しよう！生きてるって、音楽だ。(トーンマイスター石丸)



誰でも楽しめる
無料プログラム
Free Programs

電子音楽の部屋

Electronics Music Room

時間 11:00~17:00

会場 アトリエイースト

監修 檜垣智也

Supervisor: HIGAKI Tomonari

【出展アーティスト】

ヴァンサン・ロブフ、渡辺 愛、佐藤亜矢子、
石原遼太郎、守谷悠吾、

RAKASU PROJECT. (落 晃子)、成田和子、
天野知亜紀、牛山泰良、大塚勇樹、永松ゆか、
向山千晴、城西孝吉、清水慶彦、岩熊恵子、
中島弘至、新美術、坂野伊和男、田代啓希、
馬筠茹、ミュタシマヤ、

隣人 (東海大学教養学部芸術学科有志)、
岡田智則、池田拓実、檜垣智也

Vincent LAUBEUF, WATANABE Ai, SATO Ayako,
ISHIHARA Ryotaro, MORIYA Yugo,
RAKASU PROJECT. (OCHI Akiko), NARITA Kazuko,
AMANO Chiaki, USHIYAMA Taira,
OTSUKA Yuki, NAGAMATSU Yuka, MUKAIYAMA Chiharu,
JOSAI Kokichi, SHIMIZU Yoshihiko, IWAKUMA Keiko,
NAKAJIMA Koji, NIIMI Toru, BANNO Iwao,
TASHIRO Hiroki, MA Yunju, MIYUTASHIMAYA,
RINJIN, OKADA Tomonori, IKEDA Takumi, HIGAKI Tomonari

監修ノート

檜垣智也

作曲家であり、音楽祭の芸術監督であり、作曲教授であり、さらには音楽グループの牽引役でもあるヴァンサン・ロブフさん。じつは私とはもう20年以上の付き合いで、「戦友」と呼びたいような大切な仲間です。これまで何度も彼の作品をアークスモニウムで演奏してきましたが、物静かな人柄そのままに、音で圧倒するのではなく、いつも繊細で、ひとつひとつの音のオブジェにそっと寄り添うような音楽を書き続けてきました。人物像と作品世界がここまで自然に重なるタイプの作曲家は、そう多くありません。今回、満を持して彼の作品をまとめてボンクリでご紹介できることは、私にとって大きな喜びです。ぜひ耳を澄ませて、その静かな熱量を味わっていただけたらと思います。もう一つの柱は「ショートショート」。5分以内の短い作品ばかりをぎゅっと集めて、電子音楽の裾野の広さと、多様なクリエイティブのあり方との“出会い”をご用意しました。プロ/アマチュア、世代、国籍を問わないプログラムで、特に、まだ広く知られていない若い世代の作品を中心にお届けします。耳を傾けるうちに、「自分もこんなふうに音で遊んでみたい」「ちょっとつくってみたいくなった」と感じていただけたら、それだけでこの部屋は大成功です。聴いて楽しむ、出会って楽しむ、そしていつか、つくってみたいくなる——そんなきっかけが、ここで生まれればうれしいです。

「電子音楽の部屋」の詳細プログラム、スケジュールについては右記のQRコードからご覧いただけます。



async の部屋

The room of "async"

時間 11:00~17:00

会場 アトリエウエスト

♪坂本龍一：async

Ryuichi Sakamoto: async

- | | |
|--------------------|----------------|
| 01. andata | 08. fullmoon |
| 02. disintegration | 09. async |
| 03. solari | 10. tri |
| 04. ZURE | 11. Life, Life |
| 05. walker | 12. honj |
| 06. stakra | 13. ff |
| 07. ubi | 14. garden |

※スピーカー ムジークエレクトロニック・ガイザイン RL901Kによる
2chハイレゾ音源再生



Program notes

2017年にリリースされたソロ・アルバム。「あまりに好きすぎて、誰にも聴かせたくない」そんな坂本龍一の意向により、発売まで音源や内容が明かされず色々な人が立てる予想が話題となっていた前作『out of noise』から8年振りのオリジナルアルバム『async』。制作当初のアイデアのひとつが架空のタルコフスキー映画のサントラということもあり、どの曲もリスナーにそれぞれの映像イメージを強く喚起させる。実際、アルバム発表後には高谷史郎、アピチャップン・ウィーラセタクン、Zakkubalanらによって本作とその収録曲が映像化されたインスタレーションとしても発表された。近年のコンサートでは必ず演奏されていた新たな代表曲ともいえる《andata》を収録。また《fullmoon》では映画『シエルタリング・スカイ』からポール・ボウルズの、《Life,Life》ではデヴィッド・シルヴィアンの朗読がそれぞれ使用されたことも話題となった。

おと・ひかり Labo

Oto Hikari Labo

時間 11:00~17:00

会場 リハーサルルーム M1

監修 東京芸術劇場 舞台技術スタッフ

Tokyo Metropolitan Theatre, Technical Staff

Program notes

ボンクリのコンセプトは、「人間は生まれながらにしてクリエイティブだ!」ということ。音楽は楽器演奏のテクニックや知識の有無に限らず、誰もが平等に楽しめるものです。この、東京芸術劇場 舞台技術スタッフが贈る「おと・ひかりLabo」は、参加者が自由に音楽を構成する「おと(音)」と視覚情報の「ひかり(光)」を操り、誰もが“音”を表現し、遊ぶことができる実験室です。音楽を構成する「おと」を「ひかり」へ、そして、逆に「ひかり」を「おと」へと変換する3つのエレメントにより、“おと”と“ひかり”をいつもとは違った角度から体験できます。エレメント同士がお互いに影響し合い、ラボ全体が1つの作品となる瞬間を楽しんでもらえたらと思っています。

①弾かナイトオルガン

東京芸術劇場が開催している「ナイトタイム・パイプオルガンコンサート」では、演奏に合わせた照明演出も行っています。このエレメントは、キーボードを弾くと、その音と連動して、パイプオルガンの模型が照らされます。参加者オリジナルの音&照明デザインが生まれます。

②音ピカコントローラー

このエレメントでは、音楽のバランスを自由に変え、自分好みの演奏を楽しむことと、光のコントロールを連動させることができます。自分好みの音でラボの光をデザインしてみましょう。

③レインボートラッカー

このエレメントでは、2つの光るコントローラーで演奏と光の演出をすることができます。

1. 虹色の光の鍵盤は、光を踏んで演奏してラボ全体の光の色を演出することができます。

2. カラーボトルを光る机に置くとその場所ごとに音が鳴り、ラボ全体の光の色を演出することができます。

(新島啓介(東京芸術劇場 照明チーフ))

アトリウム・ コンサート

Atrium Concert

会場 ローエ広場

① 10:30~10:45

出演 花田和加子 甲斐史子

(ヴァイオリン | アンサンブル・ノマド)

HANADA Wakako, KAI Fumiko (Violins | Ensemble NOMAD)

♪ 武満 徹 : 揺れる鏡の夜明け

TAKEMITSU Toru: Rocking Mirror Daybreak

アメリカのヴァイオリニスト、アニとアイダのカヴァフィアン姉妹の委嘱によって作曲され、1983年11月17日ニューヨークのカーネギーホールで行われた2人のリサイタルで初演された。作品は、「秋」、「過ぎゆく鳥」、「影の中で」、「揺れる鏡」の小さな4つの部分からなる。(佐藤紀雄)

♪ ジェルジュ・リゲティ : バラードとダンス

György LIGETI: Baladăși joc

ルーマニアのトランシルバニア地方のユダヤ系ハンガリー人の家庭に生まれたリゲティは、初期にはバルトークやストラヴィンスキーの影響を強く受けつつも、後年は大胆な手法を用いた作品によって話題となる作品を多く残した。この愛らしい曲はリゲティ27才の時のもので、故郷の民謡を使った素朴な魅力が溢れている。(佐藤紀雄)

② 11:45~12:15

出演 J - TRAD Ensemble MAHOROBA

(邦楽器アンサンブル)

J - TRAD Ensemble MAHOROBA (Japanese Instrument Ensemble)

藤倉大による日本伝統楽器作品

ポートレート・コンサート【芯座の段】

FUJIKURA Dai Portrait Concert for
Japanese Traditional Instruments "Shinza no Dan"

♪ 藤倉大 : neo

FUJIKURA Dai: neo

♪ 藤倉大 : Yuri

FUJIKURA Dai: Yuri

♪ 藤倉大 : 芯座

FUJIKURA Dai: Shinza

♪ 藤倉大 : 《North to Nowhere》より

FUJIKURA Dai: Excerpt from "North to Nowhere"

これまでもマホロボのメンバー各々がポUNKリ・フェスに参加させて頂きました。今回グループとして予々望んで参りました藤倉大邦楽作品による個展をフェスティバルで実現頂き、喜びで溢れております。藤倉さんが日本伝統楽器のために創造された大きな軌跡の1ページを本日もご紹介します。一部ではマホロボが委嘱させて頂きました"語りとアンサンブルによる音楽劇《North to Nowhere》"から音楽のみの作品を抜粋してお聴き頂きます。その世界の果てを思わせるようなスケール感と、奥行きあるアンサンブルの響きに対峙するのは、楽器の機動力と成分が最大限引き出された弦楽器による独奏作品の嵐です。「芯座」は「龍眼」という意味もございます。

芯座を台風の目のようにして、嵐から幻想の世界へと誘われるようなプログラムとなっております、全体が一つの作品のように、アトリウムいっばいに音が渦のように展開し、やがて沈んでゆくような流れが聴き所です。

(本條秀慈郎)

③ 13:00~13:15

出演 山崎阿弥 (声)

YAMASAKI Ami (Voice)

♪ 山崎阿弥 : エッシャーの影を踏む (世界初演)

YAMASAKI Ami: Stepping on Escher's Shadow
(World Premiere)

東京芸術劇場のアトリウムは、都市の峡谷。見上げても見下ろしても遠く、目では聞こえない。トラスの隙間から注ぐ光は行き交う人に攪拌され、多種多様な建材に奏される。耳で歩けば、くだるようなのぼり、のぼるようにくんだり、楽しく惑ってしまう。アトリウムのデザインと機能を作る空間の複雑さ、豊かさ、繊細さを味わう声のパフォーマンス。エッシャーを慕い彼の影を踏むように、声空間を喰んでいく。(山崎阿弥)

④ 14:15~14:45

出演 J - TRAD Ensemble MAHOROBA

(邦楽器アンサンブル)

J - TRAD Ensemble MAHOROBA (Japanese Instrument Ensemble)

藤倉大による日本伝統楽器作品

ポートレート・コンサート【コロコロの段】

FUJIKURA Dai Portrait Concert
for Japanese Traditional Instruments "Korokoro no Dan"

♪ 藤倉大：Moon (近江胡弓・低音三味線版 世界初演)

FUJIKURA Dai: Moon

(World Premiere of the Version for Ōmi-kokyu /

Bass Shamisen)

♪ 藤倉大：Cutting Sky

FUJIKURA Dai: Cutting Sky

♪ 藤倉大：ころころ

FUJIKURA Dai: korokoro

♪ 藤倉大：さわり～ショートバージョン

FUJIKURA Dai: Sawari - short ver.

♪ 本條秀太郎：花の風雅

HONJOH Hidetaro: Hana no Fuga

藤倉作品の特徴でもあります、コロコロと元々の編成が変わり縦横無尽に展開した作品を二部では紹介致します。《Moon》はヴィオラ・ダ・ガンバと琵琶のための作品(アンサンブル室町委嘱)ですが、近江胡弓(本條秀太郎考案)という新しい楽器、そして琵琶が祖先の三味線によってこの度生まれ変わります。《Cutting Sky》はヴィオラと箏の作品で、三味線のフレーズを感じさせるようなヴィオラパートが本当に三味線となって、切れ味鋭くなっています。《さわり～ショートバージョン》は《三味線協奏曲(藤倉大作曲)》のカデンツァが抽出され、更に三味線演奏家 本條秀太郎氏のために特別版として、間と音色が生かされた至高の音楽です。音楽の芯強さがこうした創造的展開を呼び起こし、それは“替唄”や“本手”と“替手組み”、“手付”など日本音楽の概念と通ずる音楽の柔軟性と普遍的可能性を示しています。結びは藤倉さんも三味線のお稽古された作品《花の風雅》です。

(本條秀慈郎)

⑤ 15:30~15:45

出演 菊地知也 (チェロ | アンサンブル・ノマド)

KIKUCHI Tomoya (Cello | Ensemble NOMAD)

♪ モートン・フェルドマン：プロジェクション I

Morton FELDMAN: Projection I

ジョン・ケージと共にアメリカの実験音楽の作曲家のひとり、様々な新しい作曲方法を試みたが、なかでも世界で始めて考案した図形による楽譜の方法は同時代の現代音楽界に大きな影響を与え、ヨーロッパでも多くの作曲家がその方法を取り入れた。考案者のフェルドマン自身は「演奏者達が余りにも勝手な解釈で演奏する」と、図形楽譜を間もなくやめ、再び緻密な楽譜を書くようになる。この『プロジェクションI』は図形楽譜作品の嚆矢となった作品で、タイトルの“プロジェクション投影”の意味の通り、ある区切られた時間と空間に自由に音が投影される音楽である。(佐藤紀雄)

♪ 黛敏郎：BUNRAKU

MAYUZUMI Toshiro: BUNRAKU

1960年、倉敷の大原美術館開館30周年記念行事のために作曲された。タイトルの通り、日本の古典芸能である文楽(人形浄瑠璃)で奏される太棹三味線の音や、義太夫の節回し、また人形の所作などをチェロ1本で描写する画期的な作品で、チェロ独奏曲のなかの貴重なレパートリーとなっている。(佐藤紀雄)

⑥ 16:15~16:45

出演 ネオ・カルテット (弦楽四重奏)

Neo Quartet

♪ 藤倉大：弦楽四重奏曲第3番「アクエリアス」

FUJIKURA Dai: Aquarius for string quartet

弦楽器アンサンブルは単なるソロ楽器の集まりではなく、合奏することで別の生き物のように。弾力あるサウンドで継続的に形を変えて、変容していきことができる唯一の組み合わせだと思う。隙間や断片感のない、浮遊する液体のような作品を作らなかったから、タイトルは「アクエリアス」がぴったりだと思った。偶然にもこの作品を書き終えたのは、これから2000年続く水瓶座の時代(アクエリアスエイジ)に突入した頃だった。(藤倉大)

♪ アレクサンデル・コシウフ：弦楽四重奏曲第10番

Aleksander KOŚCÍÓW: String Quartet no.10

本作は「オープンワーク」の理念に基づき、8つの部分から成るが、順序も使用数も演奏者が自由に選べる。各部分は独立したイメージとして扱われ、物語的な統一よりも個々のテクスチャの観察に重心が置かれる。顕微鏡で物体を拡大した際、元の姿を示さず抽象的な色や形だけが現れるように、聴き手は対象の本来の意味から解放され、純粋な音響の価値を考察することへと導かれる。(編集:東京芸術劇場)

♪ ヨアンナ・ヴォジニ：形なきものの反響

～弦楽四重奏のための

Joanna WOŹNY: Echi dell'Informe for string quartet

断片的で引き裂かれた形式を志向する本作では、音型が現れては消え、形あるものと無形のものが入り混じりながら均衡を保つ。前景と背景の関係が重要で、音型は一瞬姿を見せても不安定で、背景に吸収され変形していく。反復的なジェスチャーやモチーフは絶えず変容し、成長し、崩壊を繰り返す。全体は流動し続け、無秩序の中に秩序や連続性を見いだそうとする試みとして展開される。(編集:東京芸術劇場)

大人ボンクリ

時間 18:00 ~ 19:15

会場 シアターイースト

楽曲シーケンス Nagie

Music Sequence: Nagie

※出演者のいない公演になります。

Born Creative Festival for Grown Ups!

プログラム

Program

- ①ハオジェー・タン：
Are you my gift, or my nightmare?
Haozhe Tan: Are you my gift, or my nightmare?
- ②ライアン・トレナー & カーラ・トルミー：
As The Unified Field Bursts
Rian TRENOR & Cara TOLMIE:
As The Unified Field Bursts
- ③牛島安希子：Fluorescence
USHIJIMA Akiko: Fluorescence
- ④Nagie & Leon Nagami：Highrashi
Nagie & Leon Nagami：Highrashi
- ⑤山根明季子：状態 No. 4
YAMANE Akiko: State No. 4
- ⑥檜垣智也：Soniferous Garden
HIGAKI Tomonari: Soniferous Garden
- ⑦山崎阿弥：虚数の喉、晴れて
YAMASAKI Ami: i THROAT, UNBOUND

曲目解説

Program notes

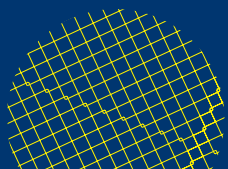
ハオジェー・タン：
Are you my gift, or my nightmare?
Haozhe Tan: Are you my gift, or my nightmare?

超幻覚症（ハイパーファンタジア）を患う者にとって、脳は絶えず様々な音と映像を幻想する。私はこの能力を祝福したこともあれば、憎悪したこともある。だからこそ問う——脳内に永遠に消えないこれらの音よ、お前は果たして私への贈り物なのか、それとも悪夢なのか？

本作は電声音楽（エレクトロアコースティック・ミュージック）であり、約9分の作品である。作者は民族劇の歌唱様式（中国伝統演劇）、ドン族の大歌（ドーゲー）、ホーミー（喉歌）、語り（声の白読み）など多様な人声音源を選び、粒子合成（グラニューラーションセシス）や人声の断片化（ボーカー・フラグメンテーション）を主要手法として、作者の脳内で鳴り響く音を再現した。時に無秩序に、時に悠長に——それらは現実と幻想の境界を彷徨う。（ハオジェー・タン）
※選曲者：藤倉大

ライアン・トレナー & カーラ・トルミー：
As The Unified Field Bursts
Rian TRENOR & Cara TOLMIE: As The Unified Field Bursts

イギリスで活躍する電子音楽家ライアン・トレナーとスウェーデンで活躍するボイスパフォーマンスアーティストのカーラ・トルミーの共同作品。曲中で聞こえる鳴き声のようなサウンドは全てカーラのInternal Singingと呼ばれる体と呼吸、声を駆使した歌唱方法だ。一方、ライアンのサウンドは高速で連打するサウンドを目まぐるしく変化させる。2つのサウンドの融合を聞いてほしい。（Nagie）



牛島安希子：Fluorescence

USHIJIMA Akiko: Fluorescence

この作品は作曲者が強く惹かれている音素材を並置することから制作が始まった。音高やピッチといった要素から距離を取ることで、音の質感、密度、運動性といった感覚的・物質的な側面が立ち現れる。ここで扱われる音は、作曲者自身の身体的記憶や触覚的な感覚を喚起する存在として配置されている。それらの音が連結・並置されることで、リズムの推進力やエネルギーの流れが生まれ、結果、作品全体のイメージやドラマトロジーが浮かび上がってくる。

《Fluorescence》は「蛍光現象」を意味する語である。語源はラテン語の fluere（流れる）に由来し、蛍光現象はフローライトという鉱物の観察から見出された。鉱物が示す質感や、多様な色彩を放ちながら変化する光のあり方は、本作における音の質感や、その移ろいと共鳴している。（牛島安希子）

Nagie & Leon Nagami：Highrashi

Nagie & Leon Nagami: Highrashi

数年前、誰もいない東京の公園で録音したヒグラシの風景。Nagieが創り出す、カナカナとなく声音楽的に変化するサウンドを聞いてほしい。Leon Nagamiは21歳の現代音楽作曲家 & サキソフォン奏者、彼の作曲・演奏するサキソフォンパートは特殊奏法で重厚にそして複雑に折り重なっていく。2つのサウンドの融合を聞いてほしい。（Nagie）

山根明季子：状態 No. 4

YAMANE Akiko: State No. 4

『状態』(2018-2024)は、テキストスコア10作品から成るインストラクション作品集。いま私たちが生きている、加速する高度資本主義の世界の一端を切り取り、見つめる場をつくろうとして制作された。」（山根明季子HPより）

本作《状態 No. 4》は、「速度の異なる複数のリズムパターンを同時に鳴らす」という言葉の指示のみから成る作品である。この指示のもと、牛島安希子がいくつかの音源を配置し、複数のスピーカーで鳴らす。音素材が展開して変容していくような楽曲の在り方とは別の時間軸が、ここに現れる。（牛島安希子）

※選曲者：牛島安希子

檜垣智也：Soniferous Garden

HIGAKI Tomonari: Soniferous Garden

上演空間の環境音に、薄い膜のような音響トラムを重ね合わせるシリーズの第4作。

特別な聴取の趣向に注意を払った作品。コンサートホールの扉を開けて、外からの音を作品の中に取り入れ、ランダムに発生するドアを叩く音、足音、通行人の声、車の通り過ぎる音などは、ゆっくりと展開していく音のトラムの一部となり、作品の時間全体に存在している。ジョン・ケージの有名な格言「音をありのままに」を彷彿とさせる世界に開かれたパフォーマンス作品である。（ミシェル・トジ、ResMusica 2020年8月27日より抜粋）

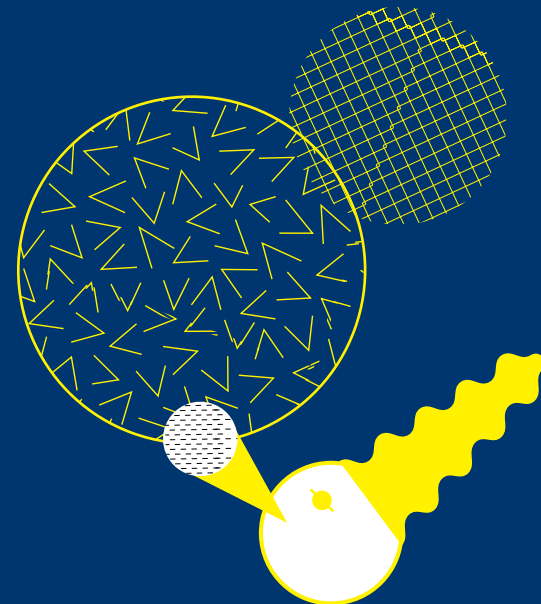
山崎阿弥：虚数の喉、晴れて

YAMASAKI Ami: i THROAT, UNBOUND

宇宙の始まりという鋭利な時点や地点など、なかったのかもしれない。始まることもなく作られることもなく、確率がゼロではないゆえに実存した宇宙は、不意の露光だった。時間の矢を得て、やがて光が自由になると、晴れて、照らされた私たちは自由を奪われた。声はどうだろう。喉に尋ねても、声の出発点は現在地は目的地は分からない。この不明においてのみ声は声としてあり、不自由な形をもつ、誰かに聞こえる歌になる。

※宇宙論をテーマに制作中のTMTギア新作舞台関連作品。

（山崎阿弥）



クロージング

～大友良英スペシャルセッション

Closing Concert - Special Session by OTOMO Yoshihide

時間 19:30～20:00

会場 ロワー広場

出演 大友良英 (ギター)

藤倉大 (シンセサイザー)

ヤン・バング (ライブ・サンプリング)

OTOMO Yoshihide(Guitar)

FUJIKURA Dai (Synthesizer)

Jan BANG (Live Sampling)



♪即興セッション：Improvisation

アンケートに答えて、ボンクリステッカーをもらおう！

今後の劇場運営に関わる資料として活用させていただきますので、アンケートのご協力をお願いいたします。
アンケートにご協力いただいた方には、なんと!! 限定オリジナルボンクリステッカーを差し上げます。

引き換え場所：ロワー広場 アンケート受付ブース (B1F)

時間：3月1日 (日) 11:00～20:15

参加方法：①右記QRコードをお手持ちのスマートフォン等で読み取りください。

②アンケートをご回答ください。



③ご回答後、入力いただいたメールアドレスに自動送信される、フォームのコピーをスタッフにご提示ください。



※限定オリジナルボンクリステッカーは数に限りがございますため、終了次第、お渡しできない場合がございます。あらかじめご了承ください。

ボンクリ・フェス2026 Born Creative Festival 2026

主催＝東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

助成＝  文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人花王芸術・科学財団

公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛＝ヤマハサウンドシステム株式会社

協力＝株式会社 Gakken



[プログラム]

編集・発行：東京芸術劇場 デザイン：秋澤一彰 米山えみ

発行日：2026年3月1日 禁無断転載

Immersive Experiences for Everyone

soundxR

ヤマハ「Sound xR Enhance」認定インストーラー
ヤマハサウンドシステム株式会社



東京
藝術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre